

十勝地方におけるアルファルファ 品種の地域適応性

堀川 洋・丸山 純孝・中島 仁志
 (帯畜大)・小松 輝行(滝川畜試)・
 須田 孝雄(十勝農協連)

緒 言

十勝地方におけるアルファルファの栽培面積は、一時期停滞していたが、ここ1, 2年で再び増加しつつある。しかしながら、現在でもまだ農家は不安をもちながら栽培しているのが実情である。栽培上の問題点のうちでも、冬期気象条件に強く支配される越冬性や永続性と関連した地域と品種の相互関係がかなり大きな割合を占めているものと考えられる。そこで、本報告では十勝地方におけるアルファルファ品種(群)の地域適応性について検討した。

材料および方法

供試品種は第1表に示した11品種である。この中には、鈴木ら¹⁾により群別されている品種以外のものも含まれているので、それらについては春～秋の生育特性および耐凍性²⁾により区分した。

試験地は、十勝管内の多雪地域(帯広市拓成)、中間地域(帯畜大)および少雪地域(本別)の3か所である。試験区は各場所に1983年7月中旬に造成し、畦幅50cmの条播で、1区が長さ2mの4畦よりなり、乱塊法の4反復で試験を行った。調査は2年目より行い、毎年6月下旬、8月上旬、10月中旬の3回刈りとし、収量調査は各試験区の畦長50cmについて行った。ここでは、2～4年次の結果を報告する。

第1表 供試品種

| II 群 | III 群 | IV 群 | V 群 |
|-------|-------|---------|---------|
| ナツワカバ | ソア | サイテーション | グリム |
| | デュピュイ | アンガス | ドライランダー |
| | ヨーロッパ | アルゴンキン | |
| | サラナック | ハインリッヒ | |

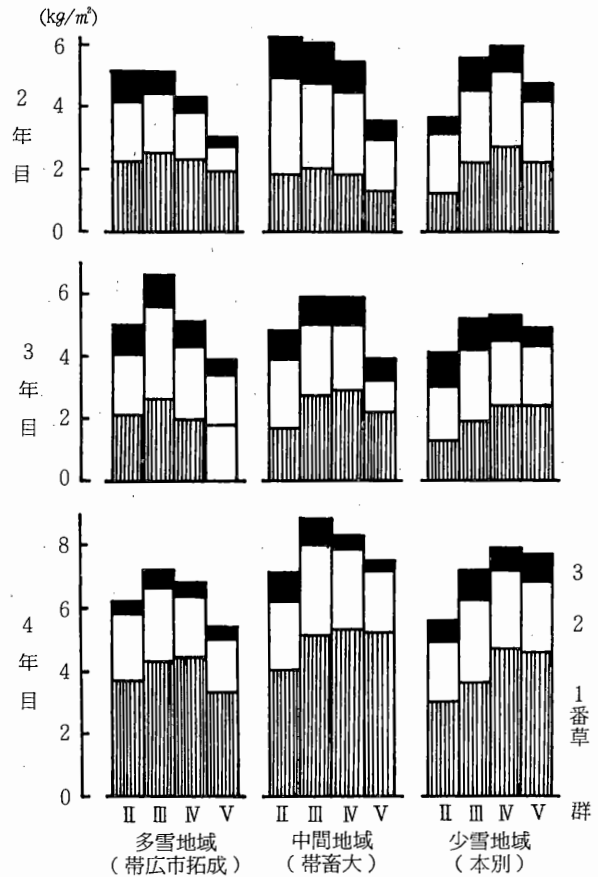
結果および考察

第1図には、群別平均の生草収量について、地域と生育年次の関係を示した。まず、地域間の比較では、いずれの群および生育年次についても、ほぼ中間地域が多雪および少雪地域より多収であった。これは、小松ら³⁾および須田ら⁴⁾がすでに明らかにしているように、中間地域ではほとんど雪腐病害も凍害も発生しないために、この地域は十勝管内のなかではアルファルファの栽培にとって最も適していることを示している。つぎに地域別に群間について比較すると、地域により群間で収量反応が異なっていることが認められた。すなわち、多雪および中間地域では従来の市販品種が属するIII群が最高収量を示したが、少雪地域ではIV群が高収であった。また生育年次の経過に伴う群間の比較では、いずれの地域においてもIV, V群が

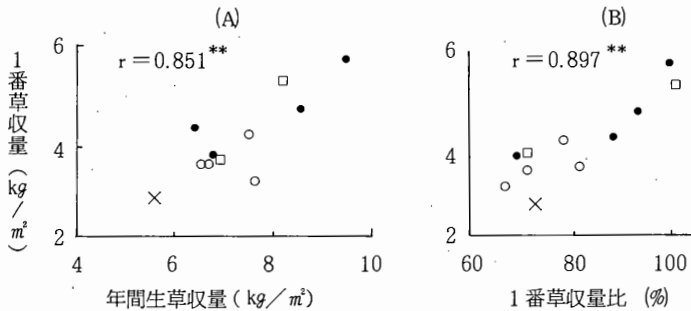
相対的に高収となっていく傾向がみられた。

これらのことから、少雪地域ではIV群品種の適応性が高いと考えられるので、そのことについて考察を加えた。第2図には、少雪地域における4年目の各供試品種の1番草収量と年間収量との関係、および越冬環境の影響を示す指標として1番草の収量比（中間地域に対する少雪地域の比）との関係を示した。第2図-(A)より、少雪地域の年間収量は1番草収量の多少によって強く規制されており、IV群の中には従来の市販品種より高収なものがみられた。また第2図-(B)より、越冬環境の影響が小さい品種は少雪地域での1番草収量が高い傾向が認められた。

以上の結果から、十勝地方の多雪および中間地域では従来の市販品種が適していると考えられるが、少雪地域では耐寒性の強い品種の選択が重要と思われる。



第1図 群別平均生草収量の地域および生育年次の比較



第2図 少雪地域の1番草生草収量と年間生草収量、および1番草収量比(少雪地域/中間地域)との関係 (4年目)

×: II群, ○: III群, ●: IV群, □: V群品種。

引用文献

- 1) 鈴木信治ら(1969) アルファルファの生育特性による品種群別. 日草誌 15: 33-41.
- 2) 堀川 洋ら(1985) アルファルファ品種の耐凍性. 日草誌 31(別): 70-71.
- 3) 小松輝行ら(1984) 十勝におけるアルファルファの凍害分布とその特徴. 北草研報 18: 165-168.
- 4) 須田孝雄ら(1984) 十勝地方のアルファルファの収量性と栄養成分. 北草研報 18: 153-156.